

地下ダムからの農業用水の恩恵を受け、サトウキビをはじめ種々の農作物の生産地となっています。それに合わせて化学農薬の使用量も増加しています。一方、南岸の大部分に地下ダム止水壁があり、自然の水循環が遮断されています。水量の確保に有効でしたが、反面、地下水に負荷され

農薬（以下ネオニコチノイド系略）クロチアニジン（ダントツ）が、それぞれ年間40ト、15ト供給されています。これらの農薬成分が地下水および水源原水から3～5種類、水道水からも検出されています。

私たちが、下里と城辺の民家の水道水を1

複数の農薬が体の中に入ってしまっているのです。多くの研究者が、検出された農薬は、発達神経毒性や内分泌かく乱作用を有してお
り、発達障害や生殖異常等との関連を指摘し

「水の日」に寄せて

宮古島地下水研究会

友和直精

投稿

この10年で、使用する農薬の種類も大きく変化しています。作物の中まで浸透し少量で効果が持続し害虫を狙い撃ちするファイプロニル（プリンスベイト）やネオニコチノイド系ウキビをはじめ種々の農作物の生産地となっています。それに合わせて化学農薬の使用量も増加しています。一方、南岸の大部分に地下ダム止水壁があり、自然の水循環が遮断されています。水量の確保に有効でしたが、反面、地下水に負荷され

る農薬成分が蓄積しやすい環境です。

8月1日は、「水の日」です。宮古島市は、地下ダムからの農業用水の恩恵を受け、サトウキビをはじめ種々の農薬（以下ネオニコトロノイド系農薬（クロチアニジン（ダントツ））が、それぞれ年間40ト、15ト供給されています。これらの農薬成分が地下水および水源原水から3～5種類、水道水からも検出されています。

私たちが、下里と城辺の民家の水道水を1

年間検査したところ、毎月2種類のネオニコ系農薬が検出されました。10名の市民の尿を調べたところ、9名で4～8種類の農薬が検出されました。既に、

割と仮定して算出します。全ての人に適用であります。小児や胎児に適用しても問題ないという科学的根拠を示すここに落とし穴があります。小児や胎児に適用しても問題ないといふことはできません。

では、これらの農薬は水道水の目標値は0・2 mg/Lです。EU／Lで、2000倍の開きがあります。医学界は、農薬による脳神経系や生殖系への影響に関し懸念を表明しています。EU等多くの国で、ネオニコやファプロニルの使用が禁止や制限されています。EUは事前に対策を行ふことで、問題を未然に防ぐ予防原則が基本です。わが国は、自ら決めた基準を超えないければ問題ないという立場です。農薬は、内

分泌が多く活性作用を有し、感受性の高い胎児では、10億分の1g (ng・ナノグラム) で生殖障害をもたらす可能性が報告されています。胎児への健康影響を未然に防ぐために、は、ng単位での目標値が必要なのです。宮古島の子供たちへの健康影響を未然に防ぐには、国の基準の範囲だから安全・安心から一步前進し、宮古島市独自でEU並みの厳しい目標値を設け、予防原則に基づく対策を実施することが必要と考えます。